

ホームルーム便覧

都立新宿高等学校

ホームルーム便覧 目次

頁

I	ホームルームの目標	3
II	ホームルームでとりあげる内容	3
III	ホームルーム実施の要領	5
(1)	ホームルーム運営の組織	5
(2)	ホームルーム計画の立て方	5
a)	ホームルーム計画作成の手順	5
b)	ホームルーム主題の選定	6
(3)	ホームルームの準備	7
(4)	実施後の処理	8
(5)	ショートホームルームの利用	9
(6)	ホームルーム運営の技術	10
a)	導入形式	10
b)	討論の形式	10
c)	議長の心得	12

(7)	正しい討論	14
a)	ホームルーム成員の心得	14
b)	正しい討論	15
c)	実際上の諸注意	15
d)	一斉討論会について	17
(8)	担任の助言	17
(9)	ホームルーム主題例	18
(10)	レクリエーションについて	21
(11)	視聴覚資料	22
a)	録音テープ	22
b)	レコード	32
c)	フィルム	32
(12)	物品借用の手続き	35
(13)	ゲーム	36

I ホームルームの目標

現行指導要領では，ホームルームは各学年に毎週1時間（50分）必修として配当され，生徒が自発的に活動する時間となっている。その活動は職員特にホームルーム担任と生徒が共同して行なうものであり，十分な活動計画に基づいて着実に運営していくことが大切である。その際の指針となるものがこのホームルーム便覧である。指導要領に示されているホームルームの目標は次の通りである。

- (1) 人間としての望ましい生き方を自覚するとともに民主的な人間関係を育てる。
- (2) 生活を楽しく豊かなものにするとともに日常生活における自律的な態度を養う。
- (3) 心身の健康の助長を図るとともに自主的に進路を選択決定する能力を養う。

II ホームルームでとりあげる内容

上記三つの目標を具体化すると，ホームルームでとりあげる内容は次の五つとなる。

1 ホームルームとしての共同生活の問題

- a) 高校生活の意義，心構え等に関するもの
(例：高校生活のあり方)

- b) ホームルームの役割・組織・活動等に関するもの
(例：委員の選出；ホームルームの反省)

- c) 学校行事・生徒会活動に関するもの
(例：学園祭について)

- d) クラブ活動に関するもの
(例：クラブ活動を活発にするには)

2 人間としての望ましい生き方に関する問題

- a) 人生の意義に関するもの(例：幸福について)
- b) 学校生活に関するもの
(例：異性の友人；勉学とクラブ活動)
- c) 家庭生活に関するもの(例：親と子)
- d) 社会生活に関するもの(例：社会道徳について)

3 進路の選択決定やその後の適応に関する問題

- a) 進路の選択決定に関するもの(例：職業観)
- b) 職業生活に関するもの(例：働くよろこび)
- c) 進路に関する知識情報に関するもの
(例：進学のための学校紹介)

4 心身の健康の保持や安全に関する問題

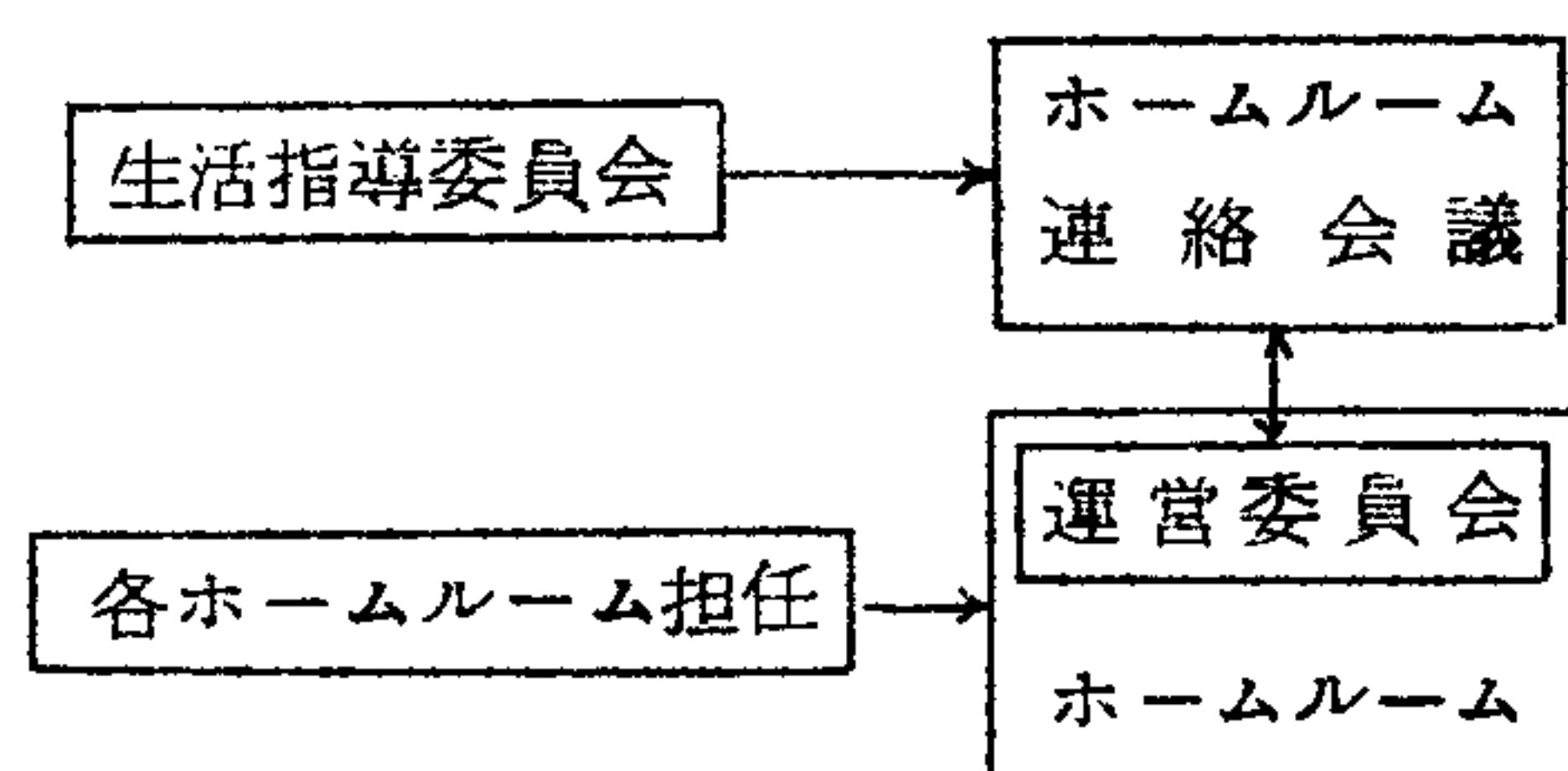
- a) 身体の健康に関するもの
(例：健康とレクリエーション)
- b) 休暇中の生活に関するもの(例：夏休みの計画)
- c) 青年期の悩みに関するもの(例：劣等感について)

5 レクリエーション

- a) スポーツに関するもの (例: ソフトボール)
- b) 趣味・娯楽に関するもの (例: コーラス)

Ⅱ ホームルーム実施要領

1 ホームルーム運営の組織



各ホームルームに設置された運営委員会は、ホームルーム担任の指導のもとに、毎期初めに、ホームルームの計画を作成し、ホームルーム生徒の賛同を得た後、ホームルーム連絡会議に提出する。ホームルーム連絡会議は、生活指導委員会の指導のもとに、各ホームルームから提出されたホームルーム計画の調整を行い、各ホームルームは運営委員を中心にこの調整されたホームルーム計画の実施に当る。実施に際しては、十分な成果がえられるように担任とよく連絡協議すること。

2 ホームルーム計画の立て方

a) ホームルーム計画作成の手順

毎期最初のホームルーム連絡会議において、運動場・音楽室等の使用割当てが決められる。各ホームルームで

は、これを考慮の上、ホームルーム運営委員が中心となって、その期のおおよそのホームルーム計画を立てる。運営委員はこれを所定の用紙に記入し、ホームルーム担任の承認を得た上で、ホームルーム連絡会議に提出する。ホームルーム連絡会議で調整が行なわれ、最終的に各ホームルームの計画が決定する。

b) ホームルームの主題の選定

主題の適不適はホームルームの成否を相当大きく左右するから、選定は慎重にしなければならない。ホームルームの生徒が比較的共通にいただいている問題点や、特に関心のあるような事がらがあればそれをテーマにえらぶのがよいだろう。そのような問題点や関心事をひきだすには

① 何でも自由に各自の考えていることを作文に

い担任や運営委員が読んで、最大公約数的な問題をひろい出してテーマ化する。

② 主題例や視聴覚資料などを参考にしてアンケートをとる。

といった方法が考えられる。

また前にかかげた“Ⅱ ホームルームでとりあげる内容”の五項目に沿ってバランスのとれた計画を作ることが望ましい。だから適当な主題が見つからないからといって、いたずらにレクリエーションのために時間をふやそうとすることは慎まねばならない。レクリエーションの回

数は、全体の30%以内が適当である。

3 ホームルームの準備

ホームルームを成功させるには、なるべく早くから準備をすることが大切である。少くとも一週間前には、「何をどのように実施するか」がはっきり決まっていなければならない。また、屋外のホームルーム（スポーツなど）では、雨天の場合を考慮して第二案を予め用意しておく必要がある。

各期のはじめにおおよそのホームルーム計画（日時と主題名だけ）が決まるが、これは“骨組み”だけであって、大切なのはその“肉付け”つまり、どのような内容のものを実施するかということである。

主題がどんなに適切なものであっても、それをどのように処理するかによって、できあがった料理の味がちがってくる。討論のテーマを示して「どうぞ話し合ってください」では短かい時間内では、とうてい満足な結果は望めまい。具体性のあるテーマなら活発な意見の交換もみられるだろうが。特に、抽象的なテーマをとりあげたときには話し合いがうまく発展するように周到な準備が必要である。そこで、運営委員が集まり、担任をまじえて、実施の形式や段取り、討論の場合の論点などをあらかじめ協議しておくがよい。例えば

a) グループ討議の形式でやろうとか、

b) スポンサー形式（一つのテーマについて、一つのスポンサーグループを募り、これに企画、執行を委ねる。レコードコンサートなどの場合、レコード愛好者が集まって選曲し、また曲の解説（あらかじめ録音しておくのも一案）を行なうなどはその一例である）でやろうとか。

c) A君とB君とCさんに代表として意見をのべてもらうためにその交渉をするとか、E君に書物からの引用を用意してもらうとか、

d) 録音テープを試聴し、その借用の手続きをとるとか

e) 予想される論点はこれこれでさろう。

といったようなことである。

協議の結果は、ショートホームルームや掲示を通じてホームルーム全体に知らせ、各自がそれぞれの心構えなり意見をもってホームルームにのぞむように心がけなければならない。

4. 実施後の処理

a) 記録は運営委員が担当し、記録を担任に提出する。

b) 記録の内容は、事務的なものをさけて、ホームルームでの発言にあらわれた問題点、それに対する意見、記録者の感想などを書くようにする。

c) 記録の形式（ノート）

月 日 曜		天候	担任印	
場所	司会		記録者	
主 題				
準 備 事 項				
使 用 し た				
資 料 ・ 悪 材				
実 施 の				
方 法 ・ 形 式				
実施経過（討論のときは論じられた問題点・意見など）				
備考	予定変更 感想 その他			
欠 席 者				

5 ショートホームルームの利用

ショートホームルームは、校内の伝達や出欠の調査や注意などに使われることが多いが、少し工夫すれば、次のようなことに利用することができるであろう。

- a) ショートスピーチ（1人1分発言）
- b) 週番日誌の発表
- c) コーラス
- d) 時事問題の解説
- e) そ の 他

a) 導入形式

テーマへの導入の段階が特に必要な場合、導入方法として、例えば次のものがあげられる。

- ㊦ 録音テープ（NHKのもののほかクラスや学年の代表数名のものによる座談会や意見の収録テープ等を含む）の利用。
- ㊧ 展示，幻燈，映画等の利用。
- ㊨ 作文，アンケート等の利用。
- ㊩ 研究発表，ショートスピーチ，本に書かれてある部分の紹介などの利用。
- ㊪ 教師，先輩，校医の話，講演会などの話からの導入。

b) 討論の形式

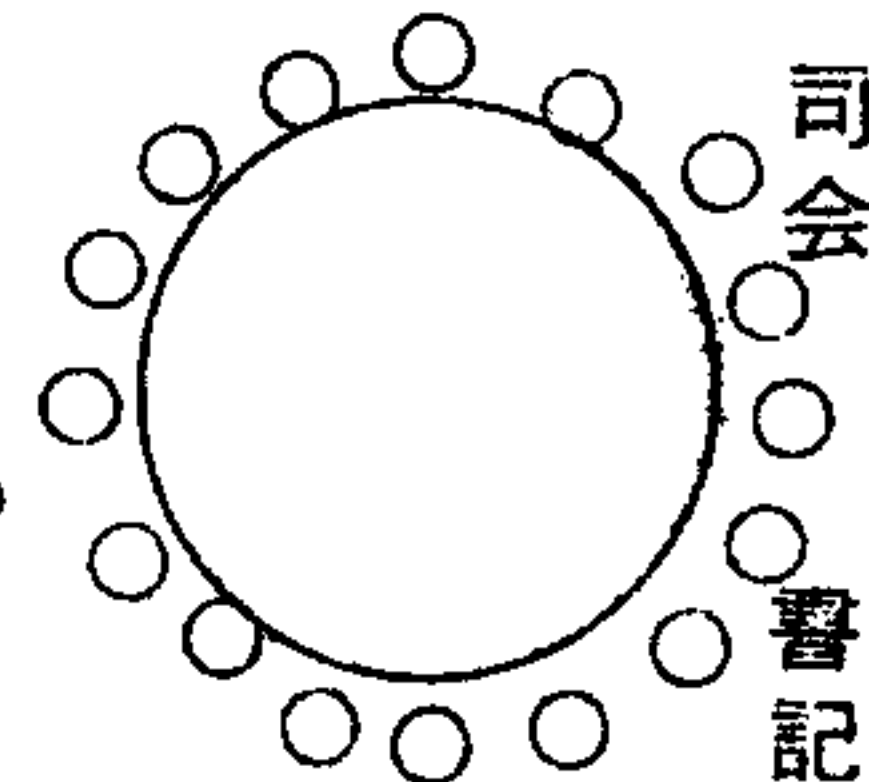
討論は民主主義を作りあげていく大事な礎である。従って、与えられた問題については、その価値の大小，是非，善悪，長短などについて、十分に意見を戦わし、そこから総合的な結論が出されるように心掛けることが必要である。一回の討論で、すぐ結論が出るとは限らない。討議によって正しい判断と、結論を得るためにあせってはならない。また結論を出すことよりも、話し合いのプロセスをだいじにして問題解決の方向や方法をうち出すことも大切である。

参考のため、以下に討論の形式をあげるが、これらにとらわれず、できるだけ固苦しくなく自由に話し合える

雰囲気を作るようにすることが肝要である。

㉑ 円卓式討議法

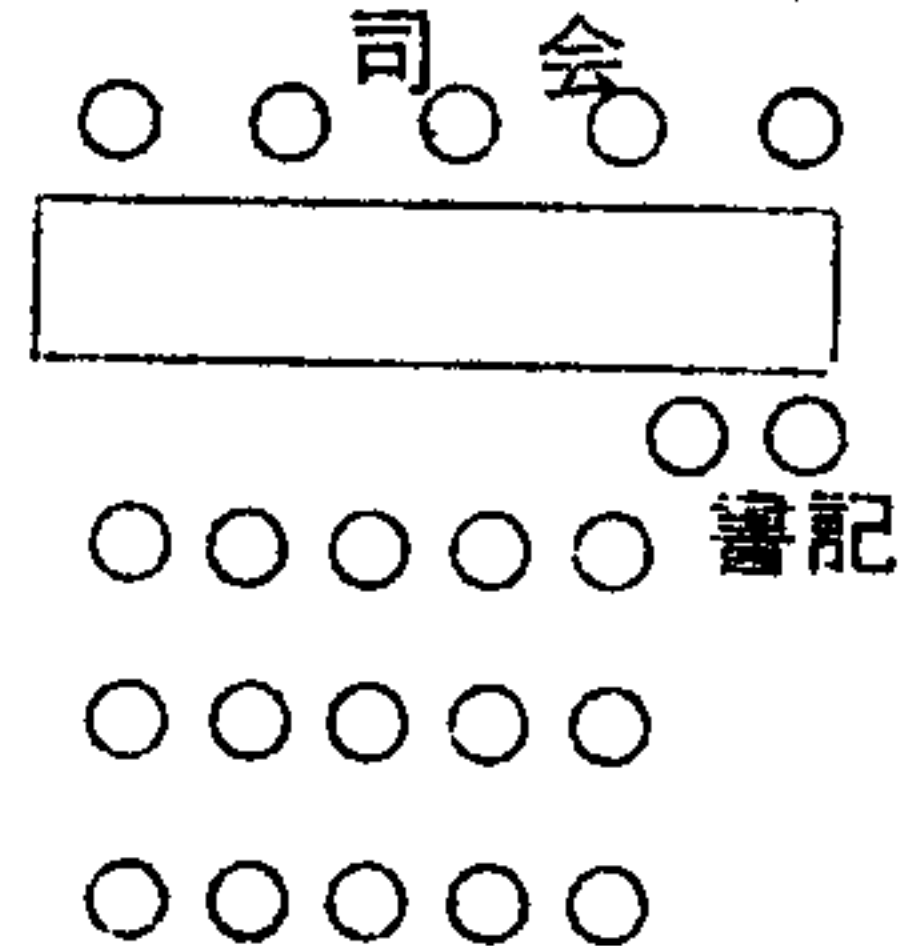
お互いの顔がよくみえるので
討議しやすく固くるしくない。
また、場合によっては二つ以上の
グループに分けてもよい。



㉒ 陪審式討議法（パネルディスカッション）

Panel discussion

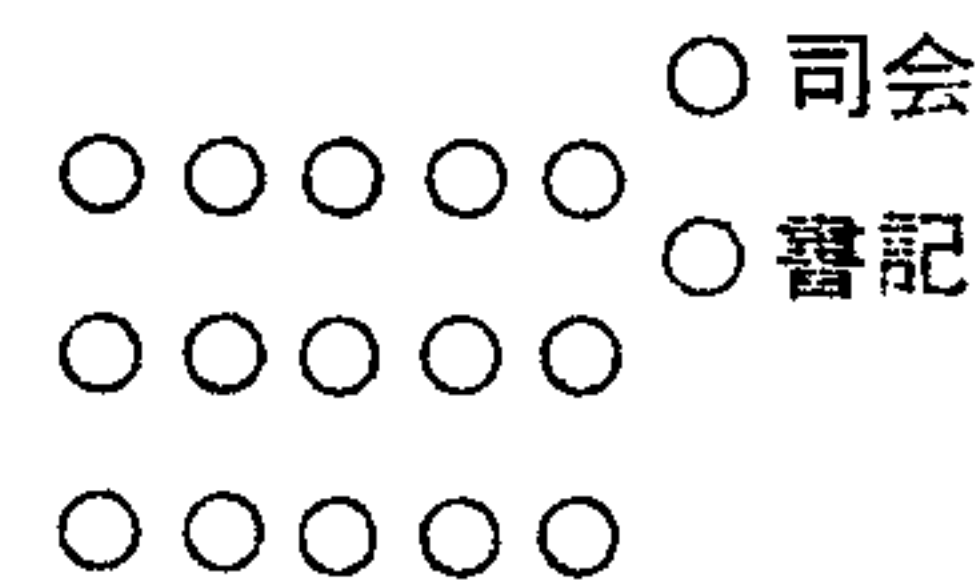
討議すべき問題について深い
理解や研究をつんだパネルメン
バー数名（4～6名）がそれ
ぞれ意見を發表した後、パネル
同志で15～25分討議をかわ
す、その他の者は聴衆となって
パネルメンバーの自由な討議の過程において、司会者
の求めによって質問の形で間接に討議に参加する。



㉓ 講壇式討議法（シンポジウム：Symposium）

一つの問題について3～5
人の立場の異なる人が意見を
のべ一通り終ったら更に2～3
分ずつ補足説明をする。その後
それに対して司会者を通じて全
体が質疑応答を行なう。
学問上の真理を明らかにしようという討論の場合には

講師 演壇



よく用いられる。

㉔ 合同ホーム討議法

①-⑦を合同ホームルームで行なう。

㉕ 賛否討議法

ホームルームを賛否二派に分け、机を対面させて討
論する。また賛否いずれにも属さない者に批判や判定
をさせるのも一策である。レクリエーション（ゲーム）
としても用いられる（模擬裁判など）

㉖ グループ討議法（バズセッション：Buzz session）

グループの作り方は

- (i) 近くのもので適当に小さなグループを作る。
- (ii) くじびき（男女別）できめる。
- (iii) 掃除当番を一つのグループとする など。

各グループ内で座長、書記をきめ、討議をはじめ、時
間がきたら討議を打ち切り、書記からどんな意見が出
たかを報告、全体の司会者が要点を板書、全員で出さ
れた意見や問題について討議（話し合い）する必要が
あれば、再びグループに分かれて討議する。

- 全部の人が討議に参加できる。
- 小さなグループでは気がねなく意見をのべあうこと
ができる。
- 一つのテーマについてある程度準備された知識をも
って全体討議にのぞむことができる。また、予備知

議をもつためにも手段として使われるといった特色がある。

㊦ スピーチインタビュー (Speech interview)

数名 (希望者あるいは推薦) の生徒が逐次自分の話したいことを話せる範囲で気軽に話し、それについて質問や反論を全体で行なう。

c) 議長的心得

㊦ 議長は会議全体の秩序の中心となり、議事進行をつかさどるものであるから会議の目的をよく理解し、現われる議論の本質をよくつかみ、整理していく。メモをとるのがよい。

㊦ 発言者を指名する。指名外の者が発言しようとした場合はこれをやめさせる。また発言を許した者でも、討議がその時の議題からはずれた場合はしかるべく方向づけるか、打ち切らせる。発言権のない者に発言させてはならない。

㊦ 発言を引き出す方法として、「番号呼び」といって、発言した人が次の発言者を出席番号で呼び出して、その人の意見を言ってもらう方法がある。この方法はなかなか有効である。

㊦ 適当にみはからってそれまでの発言を要約し (書記に板書きさせてもよい) つぎの段階へ話を発展させるよう心がける。

㊦ 論旨不明の発言については、発言者に問い正す。

またさまざまな発言がでて、整理できないときは担任の助言を求めてもよい。逆に発言が少ない場合は、議長の方から問題を投げかけ指名して発言を求める。

㊦ 各人の意見は議題からはずれない限り、自由にのべさせる。ただし、その扱いは公平でなければならない。ある人の言葉を見殺しあるいは同じ人に何度も発言させるということのないように気をつける。

㊦ 議長は、その役目である秩序維持、議事進行についてはきばき発言すべきであるが、討議されている内容について、個人的な意見をはさむことは許されない。(一時議長を副議長に交代してもらって発言する。)

㊦ 議案は多数によって決めて進む。

㊦ 記録に誤りのないように気をつける。

7. 正しい討論

a) ホームルーム成員的心得

㊦ 勝手な発言をしない。すべて議長の許可を仰いで発言する。

㊦ 会議の趣旨をよくのみこんで、要点を簡単明瞭にのべる。

㊦ 多くの人のためと信ずることは遠慮なくのべる。その代り、意見の違う人のことばにも、よく耳を傾ける。

㊦ 感情に走って判断を誤り、あるいは未梢的な論争に陥ることのないようにする。

㊤ 人の発言を脅かし、あるいは暴力などに訴えて妨げてはならない。

㊦ 群衆心理に支配されないよう冷静にすること。

多人数の会議なら、必ずその中のいくつかの流れがある。同じ傾向の者が続けて発言すると、全体がそうであるかのような錯覚を起しがちである。そのような空気に押されて、発言をためらっているときに、その傾向の人たちに押し切られてしまう。これでは民主的な会議とはいえない。

b) 正しい討議

㊡ ことばの意味を明らかにして使う。まず与えられたテーマの個々のことばの上の解釈について互にどんな解釈をもって臨んでいるかを確認め合う。

㊢ 信ずるところを裏づけて展開する。是か非か互に自分の信ずるところを主張し合う。その裏づけとして一般に認められている事がら、したがって相手も認めるにちがいないと思われる事がら（事実談、統計、世間ですでに多くの人々が認めている判断、権威者のことばなど）を並べてこちらの信念を展開する。

㊤ 相手の主張の裏づけの誤りをつく。相手の主張の裏づけとなっているよりどころに不確かなものや、誤りを見出し、それを突く。考え方の運び、結論の出し方においての論理的誤りを突く。

c) 実際上の諸注意

㊦ 自分の考えをあらかじめ整理しておく。よりどころとしてあげる材料に、不確かなものがないようよく調べて、論争の重点になりそうなところについては、特に反対論の出方を予想して、これをくつがえすに必要な材料を用意する。

㊢ 自分の主張の一番大事なところが明瞭にうかぶように話の順序、表現を工夫する。くりかえし応酬する形の討論会であるならば、およそ第1回は何を重点に、第2回は何を重点にと用意しておいて、その上で、相手の出方により工夫を加える。

㊤ 熱情を傾け、信念をはくのはよいが、言葉におぼれ感情にはしって冷静な判断を失うことのないようにする。いたずらに大声でどなったりして、相手を屈服させようという心根はよくない。

㊥ 討論は、形は争いであっても、けんかではないのだから、真に正しいと思ったことには、頭を下げるけんきよさがなければならない。また態度、表情にも礼を失してはならない。

㊡ ユーモア、諷刺を適当に交え、空気を和らげつつ進めるのがよい。必ずしも結論を出す、あるいは反対者をとことんまでやっつける必要はないのであるから、議長は、適当なところで打ち切り、あるいは話題を転じていく。

㊦ 言葉じりをとらえたがる人があるが、それでは揚げ

足はとれても、主張をもって相手を説得したことにはならない。

㊦ 抽象概念は、教養により、境遇により、深さ、ひろさの違いがあるものであるから食い違いがおこりやすいので注意する。

㊧ どんな小さいことでも、つきつめていくと、多くのことにつながっていることが多い。広い視野からものを考える習慣を養うべきである。しかし、幹と枝との区別を見失ってはならない。

d) 一斉討論会について

一斉討論会はホームルームにおける討論会の活発化を図る一助として行なうものであって、各期に1回ずつ実施する。学校または生徒会から統一テーマを出題し、全校一斉に行なう。実施の方法・形式、準備などについてホームルーム連絡会議で、予め十分な共同研究を重ねることが大切である。

8. 担任の助言

ホームルーム計画の作成、主題の選定・内容、討議のすすめ方などに関し、担任の助言や方向づけが必要な場合が少なくない。特に抽象的なテーマをえらんだときは、話し合いが発展するように担任の知恵を借りてほしい。そして担任と生徒が一緒になって楽しいホームルームになるように心がけよう。

9. ホームルーム主題例

下に掲げるものは、ホームルームの主題の例であって、もちろん、これ以外にも主題となり得るものは沢山あるであろう。これを参考にしてみんなづ主題を決めるとよいだろう。1～85の番号は、アンケートをとる時などに利用すれば便利である。()内はそのテーマに関連のある録音テープの整理番号(P 23参照)を示す。

1) ホームルームとしての共同生活の問題

1. 高校に入学して(8-2, 16-1)。
2. 高校生活のあり方(2-1, 8-2, 8-3, 24-1, 1-4)。
3. 校則について(2-1, 24-1, 24-4)。
4. 学校の立場と生徒の立場(同前, 3-1)。
5. 生徒会のあり方(4-3)。
6. クラブ活動を活発にするには(14-1, 14-2)。
7. 協力と責任(6-1)。
8. 学園祭について(18-3, 10-4)。
9. 学園祭の反省。
10. ホームルームのあり方と役割(15-1, 15-2, 15-3, 15-4, 16-1, 16-2, 2-2)。
11. ホームルームを明るく楽しくするには(同前, 14-4)。
12. ホームルームの反省。
13. 本校の校風について(24-3)。
14. 伝統について。
15. 愛校心について(20-3)。
16. 修学旅行の反省。

2) 人間として望ましい生き方に関する問題

17. 人生の意義(9-4)。 18. 私の人生観。
19. 自然と人生。 20. 青春時代の生き方(4-1, 1-2, 4-2, 4-4, 11-3, 12-4)。
21. 未来の夢(将来の設計)。 22. 生き甲斐について。 23. 理想と現実。 24. 私という人間。
25. 私の生活信条。 26. 個性について。
27. 幸福について(1-1)。 28. 幸福とモラル(同前)。 29. 友情について(5-1, 5-4, 18-1, 22-4)。 30. たがいに信頼しあうには。 31. 恋愛と結婚(19-4)。 32. ユーモアについて。 33. 集団における個人の自由と責任。
34. 自由と規律(2-1)。 35. 責任について。
36. 無関心について。 37. 生徒から先生へ, 先生から生徒へ(10-1, 23-1, 23-2, 10-2, 10-3)。 38. 友人交際とエチケット(18-4)
39. 異性の友人(19-1, 22-1, 19-3)。
40. 男性から女性へ女性から男性へ(5-2, 5-3, 7-1, 7-2, 7-3, 7-4)。 41. 能率的な学習法(8-1, 9-1, 12-2, 17-1, 17-2, 12-3)。 42. なぜ勉強しなければならないか(13-1, 14-3, 24-2, 25-1)。
43. 成績について(24-2)。 44. 勉学とクラブ活動(14-1, 14-2, 3-2, 3-3)。

45. 余暇の利用について。 46. 親と子(22-2, 22-3, 13-3)。 47. 親と子の意見の対立を解決するのには(同前)。 48. 私の希望と親の希望(同前)。 49. 親の愛情と期待について(同前)。
50. 明かるい家庭をつくるには。 51. 社会問題と私たちの生活(8-3, 8-4, 18-2, 23-4, 1-3, 6-2, 23-3)。 52. 社会道德について(8-3, 9-2, 20-1, 23-4, 3-4)。
53. 望ましい人間像。 54. 私の尊敬する人物。
55. 愛国心について。 56. 広い視野をもつということ。 57. マスコミと自分。 58. 新聞の読み方。
59. 現代の世相。 60. 最近の時事問題。

3) 進路の選択決定やその後の適応に関する問題

61. 職業と適性(21-3, 6-4)。 62. 職業観(25-2)。 63. 上級学校の種類とその選択(12-1, 20-2, 21-4, 20-4)。 64. 進学のための学校紹介。 65. 卒業生の進路状況

4) 心身の健康の保持や安全に関する問題

66. 健康とレクリエーション(14-4, 11-4)。
67. 服装について。 68. 高校生のエチケット(18-2, 23-4)。 69. 青年期の悩みについて(9-2, 11-1, 21-1, 21-2, 6-3)。 70. 劣等感について(21-4)。 71. ノイローゼ(11-2)。 72. 好きと嫌い。 73. よい相談相手。

7 4.新しい年への抱負。 7 5.夏休みの計画(9 - 3)

7 6.夏休みの反省。 7 7.冬休みの計画。

5) レクリエーション

7 8.各種スポーツ。 7 9.フォークダンス。

8 0.屋外ゲーム。 8 1.室内ゲーム(1 6 - 3)

8 2.コーラス。 8 3.レコードコンサート。 8 4.演芸会。 8 5.1 6ミリ映画会。

10. レクリエーションについて

レクリエーションとは、仲間と共にする遊戯活動である。それはなんら専門的・高度な熟練を必要としないもので、それを通じて交友を助長し、親和の精神を発達させ緊張より寛く機会を与え、そして各人のうちに快適と幸福の感じを取りもどさせるよう意図されたものである。

a) 屋 内

㊦ レコードコンサート

・スポンサーシステムにより曲目を選定する。

㊧ コーラス

・歌集利用。他のクラスのめいわくにならぬよう。

㊨ 1 6 ミリ映画会

㊩ 室内ゲーム

㊪ 演芸会

㊫ 懇親会

・クリスマス、学年末。

b) 屋 外

㊬ スポーツ(軽スポーツ)

- ・ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、バトミントン、卓球、なわ飛びなど。
- ・グラウンド使用(第一、第二グラウンド及び体育館)は4クラスまでが適当。

㊭ フォークダンス

- ・世界各国に伝承されてきた民族的な踊りをえらんで、それを通してその国の風俗や習慣を理解する。
- ・できるだけ異った踊りをえらぶ。
- ・体形の異ったもの、ステップや動作に特徴のあるものや踊りの構成に特徴のあるものを学ぶ。
- ・難易のフォークダンスをえらび、学年別に練習する。

c) 御 苑

㊮ 各学期に1回以内とする。ホームルームの先生が引率する。

㊯ 計画と準備を前もって十分しておきできるだけ時間を有効に使うこと。

㊰ 苑内の規則を厳守する。

㊱ 次の時間に支障のないように早目に帰校する。

11. 視聴覚資料

a) 録音テープ

(NHK 「青年期の探求」 , 各テーマ1 5分)

テープ 番 号	テ - マ	ね ら い
1 - 1	幸 福 論	真の幸福とはいかなるもの かを考える。
2 - 1	行 動 の わ く	集団生活における規律の意 義を考える。
4 - 1	私 の 青 春 時 代	作家幸田文氏と画家岡本太 郎氏の話
5 - 1	友 情	友情を深め，よい交友関係 を育てるにはどうするか。
5 - 2	強くなった女子， 弱くなった男子	男女それぞれ自分の行動を 反省し，理解と協力を高め る。
5 - 3	男同士，女同士	男女の友情のあり方や，男 女間の壁をなくす方法を考 える。
5 - 4	高 校 生 の 友 情	高校生活にふさわしい友情 のあり方，育て方は。
8 - 1	勉 強 の コ ツ	勉強のコツを科学的に解明 する。
8 - 2	高校生活の中で 考える	人間形成の最も重要な今の時 時期をどう過ごすべきか。

8 - 3	高校生活のわく	高校生もまた社会人である。 その行動のわくは。
8 - 4	政 治 へ の 関 心	政治に対して高校生のとる べき態度を考える。
9 - 1	受験勉強と学校 の勉強	受験勉強と学校における学 習とは別々のものか。
9 - 2	話しじょうず 聞きじょうず	話し方・きき方の上手下手 は人間関係に影響を与える。
10 - 1	話せる先生 話せない先生	教師と生徒のむすびつきに ついて，生徒は教師にどん な願いをもっているか。
11 - 1	自 我 の 成 長	青年期における自我の成長 と育成について。
12 - 1	私のいきたい大 学	大学進学の意味と大学のえ らび方を考える。
12 - 2	私 の 勉 強 法	合理的で能率的な勉強法を 各自で考え出そう。
14 - 1	ク ラ ブ と 勉 強	クラブ活動と勉強の両立を どう考え，どう処理したら よいか。
14 - 2	クラブで頑張っ てよかった	クラブ活動からは何が得ら れるか，またその意義は。

14-3	受験生活の明暗	暗く灰色といわれる受験生活にも，ある意味でのプラス面がある。
14-4	上手なレクリエーション	ホームルームを楽しいものにするレクリエーションの上手な使い方。
15-1	わがホームルームの設計	新鮮な意欲のあふれたHRを作るための設計。
15-2	私たちのホームルーム	すぐれた活動をつづけているホームルームを訪ねる。
15-3	ホームルーム運営の工夫	運営の工夫によってホームルームの成果はきまる。
15-4	ホームルームの問題点	自分のホームルームの今までをふり返って，今後どうしたらよいかを考える。
16-1	ホームルームを育てよう。	新入生のオリエンテーション。また，2，3年生への反省の資料
16-2	ホームルーム運営のコツ	独特の運営法で成功しているホームルームを訪ねる。
17-1	努力と能率	色々なタイプの勉強法を専門家に分析，論評してもらう。

17-2	に が て 退 治	苦手を克服するにはどうしたらよいか。（本校生登場）
18-1	高 校 生 の 友 情	高校時代にふさわしい友情のあり方，育て方。
18-2	高校生にひとこと	高校生について社会の人々はどう考えているか。
18-3	文化祭を成功させよう	文化祭を生徒全員の盛りあがりによって成功させるには。
19-1	異 性 の 友 だ ち	高校生としての男女間のあり方を考える。
20-1	親 切 と 勇 気	公衆の中のモラルをどのように守り育てていくべきか。
20-2	大 学 と 大 学 生	大学とはどんなところか。進学の意味や心がまえを考える。
20-3	愛 校 心	正しい愛校心について考える。
21-1	性格は変えられるか	青年は多く自己の性格に不満をもち，それが劣等感と結びつく。この悩みの解決法は。

21-2	つきあいの上手 下手	社会生活において大切な協 調性を養うにはどうするか
21-3	文科向き 理科向き	自己の適性を知り、能力を 開発するにはどうするか。
21-4	劣 等 感	劣等感の原因をつきとめ、 それを克服するにはどうす ればよいかを考える。
22-1	男 女 の 交 際	高校生としての一対一の交 際友情について考えるべき 問題点にどう対処するか。
22-2	親孝行について	家の観念が大きく変わった 現代において、親孝行はど んな形をとるべきものか。
22-3	親の気持・ 子の気持	新時代にふさわしい親子関 係を作り出すにはどうした らよいかを考える。
23-1	先生にひとこと	教師と生徒との間でなんでも話 しあえる状態をつくり 相互の理解を深めるように したい。
23-2	生徒にひとこと	
23-4	高校生にもの申 す	高校生としての望ましいあ り方について考える。

24-1	規 則 と 自 主 性	学校の規則と生徒の自主性 との関係を考える。
24-2	学校の成績と実 力	学校の成績とその人物の実 力は比例するものだろうか。
1-2	現代のヒューマ ニスト	ある誠実な個人の人生観を 知り高校生の生き方を反省
1-3	社 会 へ の 関 心	社会の動向について高校生 のとりべき態度を考える
1-4	高 校 生 活	卒業生と先生にいろいろと 高校生活のすごし方をきく
2-2	ホームルームを もり上げよう	不活発であったHRを活発 にしたプロセスを紹介する
3-1	学校の立場 生徒会の立場	学校の立場と生徒会のあり 方を考える
3-2	クラブの名簿会 員	名前だけの会員の存在を通 して望ましいクラブのあり 方を考える
3-3	ふ た す じ の 道	クラブと勉強の相克につい ての討論会
3-4	非 行 の 周 辺	非行の背後にひそむ問題点 を明らかにする

4-2	青年時代を語る	ある社会人の青年時代の体験をきいて、高校生の生き方の参考にする。
4-3	生徒会とは何か	生徒会の役割りと生徒会の望ましいあり方を考える。
4-4	フェアプレイ (ドラマ)	フェアプレイといわれる実例のいくつかを紹介する。
6-1	責任感のない人	民主社会に生きる人間として責任という問題を考える。
6-2	新時代の人間関係	お互の理解を深めるための人間関係を考える。
6-3	悩みが生じたとき	高校生の具体的な悩みについて専門家の意見をきく。
6-4	自分を知ろう	心理学者や専門学に人間の適性や能力とは何かをきく。
7-1	理想とする男性像を求めて	真の男らしい性格や生き方について考える。
7-2	理想とする女性像を求めて	真の女らしい性格や生き方について考える。
9-3	わたしの夏休み	作文をもとにして識者がいろいろとアドバイスを与える。
9-4	いのち	生命の尊厳について考える。

10-2	先生の気持 生徒の気持	HRを楽しいものにするためには先生と生徒がお互によく理解しあうことが大切なことを知る。
10-3	先生への注文	生徒から先生への注文と教師としての考えを紹介。
10-4	文化祭はだれのもの	文化祭を成功させるための組織づくりについて考える。
11-2	ノイローゼ	ノイローゼの症状や早期発見と治療を専門家にきく。
11-3	若さと正義感	正義感を正しい方向に伸ばすにはどうしたらよいか。
11-4	ファイト	ファイトで生きぬく高校生の生態を紹介する。
12-3	不得意学科征服法	不得意学科を征服するにはどうしたらよいかを考える。
16-3	ホームルームと室内ゲーム	室内ゲームの実例を紹介してHR運営の参考とする。
18-4	親友とは	真の友情を育て支えるものは何かについて考える。
19-3	男女交際のルール	高校時代の男女の交際の正しいあり方を考える。

19-4	恋愛と結婚	将来幸福な生活を送るためには恋愛と結婚をどのように考えたらよいか。
20-4	はいりたい大学 はいれる大学	自分の能力や大学の特色を通して各自の進路を考える。
23-3	社会は高校生を どう見ているか	社会は高校生にどんなことを期待しているか。
24-3	校 風	学校の校訓，伝統，校風をどう考えたらよいか。
24-4	学 校 の 規 則	集団生活を維持するためのルールの意味を考える。
12-4	未 成 年	不安定なこの青年期を健康に生きるためにはどうするか。
7-3	男 ら し さ	高校生はどのように男らしい生き方をしたらよいか。
7-4	女 ら し さ	真の女らしさとは何か 新しい女らしさを考える。
13-3	両 親 と わ た し	よりよい家族関係をつくるためにはどうしたらよいか。
22-4	と も だ ち (ドラマ)	高校時代における友人の必要と真の友情について。

25-1	勉強は何のため	勉強の目的を新しい観点から考えてみる。
25-2	女性と職業	女性の職業観と新しいあり方を考える。

b) レコード

本校図書館にLPレコード(おもにクラシック)が相当数あるので利用するとよい。詳細は図書館に問い合わせること。(貸出し手続きはP35参照)

c) フィルム

第2学区では都立駒場高校に，「東京都青少年ライブラリー」が設置されており，そこにある16ミリフィルムをホームルームで利用することもできる。学区内の各高校でよく利用されているものを挙げてみると次の通りである。(1巻は約10分，指示のないフィルムは黒白)

主として討論の前後や話の糸口として利用できるもの

- | | |
|--------------|----|
| 1) 黙ってはいけない | 2巻 |
| 2) 正しい話し方 | 2巻 |
| 3) 話し合いのブレーキ | 2巻 |
| 4) 話し上手，聞き上手 | 2巻 |
| 5) 言葉づかい | 2巻 |
| 6) イエスとノー | 2巻 |
| 7) グループとリーダー | 2巻 |
| 8) エチケット | 2巻 |

9) スランプ	2 巻
10) みんなでフォークダンス	1.5 巻
11) ことばと態度	2 巻
12) ひとりの母の記録	4 巻
13) 青 年	5 巻
14) 石ころの歌	6 巻

主として観賞的利用となるもの

1) 六人姉妹(女子の進学問題)	5 巻
2) 若い潮(男子の浪人問題)	5 巻
3) 母と娘(娘の反抗問題)	3 巻
4) 続六人姉妹(ホーム・ドラマ)	5 巻
5) 父と子(親子関係)	3 巻
6) おやじとむすこ(親子関係)	3 巻
7) おやじの威厳(父親の子に対する影響)	3 巻
8) うちの父親(父親のあり方)	3 巻
9) おふくろ(未亡人の母をえがく)	5 巻
10) 息子の日記(異性交際と母親)	3 巻
11) 父と母とその子たち	3 巻
12) ヨーロッパの暮し(1), (2)	各 3 巻(カラー)
13) アメリカの家庭生活(1), (2)	各 3 巻(カラー)
14) 世界の青年(大学の伝統)	3 巻
15) " (高校時代)	3 巻
16) " (祖国愛)	3 巻

17) 世界の青年(フロンティア精神)	3 巻
18) " (自由とモラル)	3 巻
19) 見てきたソ連	3 巻
20) 新しいアメリカ	3 巻

備考 東京都青少年ライブラリーについて

東京都青少年ライブラリーの設置校は7都立高校で、第2学区では都立駒場高校である。現在同校設置のライブラリーは194巻の16ミリ映画フィルムを備え、更に毎年76万円の予算で、映画選定常任委員の手を経て新しいフィルムを逐次購入している。そして同校の校長を館長とし、そのもとにライブラリーの主任をおき、その運営にあたっている。そして16ミリ映画フィルムを学区内の公立私立高校を主な対象として貸出している。規定は10条からなっているが、借用するにあたって直接関係があるものは、次の3条である。

(1) 貸出期間

映画フィルムの貸出期間は2日以内とする。

(2) 貸出数量

映画フィルムの貸出は1回10巻以内とする。

(3) 貸出手続

映画フィルムの貸出は無償とする。

映画フィルムの貸出を受けようとする団体は、すくなくとも貸出の5日前までに借用申込書を提出するほか、つぎのものを呈示しなければならない。

1) 登録証

2) 東京都教育委員会が発行する16ミリ映写機操作免許証。

3) 東京都教育委員会が発行する16ミリ映写機登録証
なお本校では貸出登録手続を完了しており、また現在ではライブラリーに最新型の16ミリ映写機を用意しこれを使用して映写の希望校には無償でフィルムと共に貸出している。各ホームルームで借用したい場合には本校図書委員会の先生に連絡することである。

1.2 物品借用の手続

ホームルームで使用する器材・資料を借用する場合は、使用当日に申し込んでも、先約や故障などの理由で、必ずしも借りられるとは限らないし、また、録音テープなどは予め試聴しておく必要もあるので、なるべく早目に申し込んで予約しておく方がよい。

a) 録音テープおよびテープレコーダー

ホームルーム用の録音テープ（NHK「青年期の探究」）およびテープレコーダー（3台）は生活指導委員会で管理しているので、使用したい場合は、予め同委員会の先生（ホームルーム係）へ予約申込みをしておき、当日受領する。

b) 電 蓄（ステレオ）

現在、移動式電蓄2台と、音楽室すえ付けの電蓄1台

とがある。

移動式電蓄を借りるには、事務室で所定の用紙に記入して申し込む。（担任印が必要）

音楽室すえ付けの電蓄を使用するには、音楽科の先生（物理教官室）に予め申し込んで許可を得ておき、当日物理教官室の先生に連絡の上使用する。

c) レコード

本校図書館備付けのレコードを借用するには、所定の用紙に記入し（担任印必要）、使用2日前までに図書館に申し込む。

d) 16ミリフィルム

東京都青少年ライブラリーの16ミリフィルムを借用したい場合は、本校図書委員会の先生に申し出て、所定の手続きをとる。（P34参照）

e) 運動用具

所定の用紙に記入して、体育教官室に申し込む。（担任印必要）

f) 特別教室

16ミリ映画会などで、生物教室・物理教室・化学教室などを使用する場合は、予め各科の先生の承諾を得ておくこと。

1.3 ゲ ー ム

① 名札送り （全員の名札、一重円）

めいめい自分の名札を右手にもち、レコード又はよ

く知っている歌に合わせて、一斉に右へ右へと送っていく。

リーダーの「ストップ」の合図で送るのをやめ、その時に自分の手にある名札の人を大声で呼んでさがし、その人に名札を返す。自分の名札は誰かの手にあって呼ばれているはずなので、その人を探して名札を返してもらい席に帰る。

② 貴殿の頭ははげ頭

2人で向き合う。一方の人は相手の頭を指して「貴殿の頭ははげ頭」という。同時に相手は自分の腰に手をあてて刀をもつかっこうで「拙者の刀はさび刀」という。つぎに、同時に、今相手のやったことを、今度は自分がする。これをくり返して、笑ったり間違えた方の負け。個人戦、勝ち抜き、どちらでもよい。はげ刀やさび頭がでてきたりして大笑い。

③ ひょうたんぶらぶら

1の人に「ひょう」という。2の人は「たん」とはいわないで拍手、3の人は「ぶらぶら」といわないで両手をおぼけのようにぶらぶらさせる。まわす方向を一定しないで、やる人が顔をむけた方向の人がうけることにすると、いそがしくておもしろい。

④ うたづくり（人数分の紙と鉛筆）

紙を5つに折り、5、7、5、7、7と書く。めいめい最初の5文字を書いて、となりの人に送る。もら

った人はもらったことばのインスピレーションを7文字にして書く。次の人には自分の書いた7文字だけみえるようにして送る。（従って、いつも自分の書く一つ前のことばしか見てはいけないことになる。）5行うまったら、リーダーは集めて、読んで披露する。

⑤ 名さし

2人組をつくる。30人位までよい。本名またはニックネームを順々に大きい声でいう。2人のうち1人が「〇〇さん」とよぶ。すると〇〇〇さんと組んでいる人がハイと返事をする。今度は〇〇さんが誰か他の人を名さす。自分の相手を名さしてはいけない。

⑥ 八百屋

鬼を1人きめ、その人が誰かを指して「八百屋」と口早にいうと、いわれた人はすかさず八百屋に売っている品物を1ついう。つまったり、遅かったりすると、その人が代って鬼になる。上手に答えたら、鬼は他の人に次々に向う。魚屋、花屋など同時に3種類ぐらいの商売を用いる。全員にカード（またはマッチの軸など）を同じ数だけ配っておき、うまく答えたら鬼に1枚渡し、つまったら鬼から1枚もらい、早くなくなった人から、順次ゲームからぬいて、一番多く手にカードが残っている人の負けにしてもよい。

⑦ 魚鳥木（ぎょちょうもく）

「八百屋」と同じようなゲームである。鬼が「魚鳥

木申すか申さぬか」というと、みんなは「申す申す」と声をそろえていう。鬼は誰かを指して「魚」というと、指された人は、鬼が10まで数えるまでにすぐの名をいわねばならない。鳥、木の時もそれぞれその名をいう。ちがうものを答えたり、遅かったら鬼にかわる。一度出た名はいえないというルールを作っておくのもよい。

⑧ リーダーさがし

鬼が1人中央に出て目をつむっている。その間に鬼にきこえないように、誰か1人リーダーをきめる。リーダーは手をたたいたり、ひさをたたいたり、次々動作をかえてめくと、みんながその通りにする。鬼はよく見ていて誰がリーダーであるかをあてる。みんなの目がリーダーの方に向かっていて、すぐ鬼にわかるから、なるべく見ないようにする。あたると鬼は交替する。

⑨ お茶をどうぞ

円の中央で鬼が1人目かくしをする。みんなはそっと席を入れかわって坐る。鬼は誰かの前に行って「どうぞお茶をお上がり下さい」という。いわれた人は自分をさとらせないような声を出して「ありがとうございます」という。あてられたらその人が鬼になる。毎回席をかえてつづける。これはよく知った人同志のゲームである。

⑩ 社長、重役

円の一ヶ所だけ少し切れめをつくっておき、端から順に社長、重役（または部長、課長）1, 2, 3, 4, …と番号をかけ、さいごの人が小使になる。ゲームは小使からはじまる。小使は「小使、社長」（社長でなくてもあてようとする誰でもよい）とよぶ。よばれた社長はすぐ「社長、2番」というと、よばれた番号の人は、すぐ「2番、1番」というふうに、まず自分の番号、次にあてようとする人の番号をいう。まちがったり、遅かったりすると、その人は小使になり下がりその人以下にいた人は、みんな席をつめて一つずつ上がる。なれてくると、みんなでリズムにあわせてやるとおもしろい。

⑪ 豚、エッ?

いく組かに分かれて、合図とともに、各組の1番は2番に「豚」という。2番は1番に「エッ?」ときき返す。1番はもう1度はじめと同じく「豚」というとやっとわかった2番は3番に「豚」というと、3番は2番に「エッ?」といい、2番は1番に「エッ?」という。1番から2番に、2番から3番に、3番から4番に「豚」が伝えられる。4番から1番まで「エッ?」が返り、1番から5番まで豚が伝わる。以上のようにして、最後の人に「豚」が来たとき、その人は「ブ」と大きい声でなく。早くない組の勝ち。伝えること

ばは、名詞でなくてもかんたんな文でもよい。

⑫ ゴシップ

いく組かに分かれる(円のまゝ区切ってもよい)

各組は早くまちがいなく、つぎつぎ耳もとでさゝやきながら、伝えられた文を送る。早くて正確な組の勝ち。

⑬ インスピレーション

(1) 2組以上に分かれ、リーダーから発せられたことばについてのインスピレーションを次々に伝えていく。(耳もとでさゝやいてもよいし、紙に書いて伝えてもよい。)最後の人まで来たとき、どうしてそういうことになったのか理由をいい合う。

(2) 紙と鉛筆をもちより、2組に分かれて、互いのグループに題を出し合い(レコードをきいてもよい)それから得たイメージを、詩なり、文にする。書いた人の名前をふせてよみあげる。誰がどの文を書いたかを、出題グループはあてる。

⑭ 手拭送り

各組に1本ずつ手拭をわたし、合図とともに早く頭に鉢巻をして、ポンポンポンと3回手をたたき、つぎに送る。(また、豆や碁石を皿に入れ、竹のはしで別のあき皿に一つずつはさんで移しかえ、つぎの人に送る。十円玉を手の指にのせて送るのもおもしろい。)

⑮ スキヤキ (20人以上、屋外、一重円)

1, 2, 3の番号をかけ、1を肉、2をねぎ、3を

白たき(がんもどき、やきどうふも入れてよい)、というような役割をきめ、1名または2名位をフリーにしておき、リーダーが「肉」といったら、1番とフリーの人が全員一斉に動いて空席に入る。あぶれた人はかくし芸をやってもらう。同時に二つのことばをいってもよい。「スキヤキ」といったら全員動くことになる。

⑯ 木の中のリス

全体を20名前後の組に分け、3人1組となり、2人が手をつないで1人が中に入る。鬼を1, 2名きめ中央に出る。リーダーの合図(宿がえ)で、中の1人は必ず他の所に移動する。鬼はその時空いている所に入る。二人は交代するようにする。